

# 平成 25 年(第 40 期)事業計画

## 総務部

平成 25 年 11 月末を期限に公益法人制度改革における移行期間が終了する。当会においては、24 年の事業期末をもって、提出資料を整理し移行申請していく。ただし、移行最終年ということもあり、他省庁管轄の団体からの申請も集中してくることから、実際の移行認可については時間を要するものと考えられ、その間、内閣府担当者との細かな調整等を行う必要がある。

安倍新政権が誕生し、新たな経済対策が充実していく一方、消費税をはじめとした対極の施策にも注視していく必要がある。今後デフレ傾向からの脱却を志向する上で、食品業界にどう影響していくか不透明であるものの、鯉節業界において製品の安全・安心に努め、消費者ニーズに応えていくことが重要になってくる。そのために、行政の指導等アドバイスを受け、そして関係団体との連携等を適宜適切に図っていく。

ほか一般社団移行を契機にして会員の増員・拡充等、収支の安定に向けて各種施策を検討する。

(主な実施予定項目)

### (1) 重要事項

- ① 一般社団法人への移行認可申請および手続きの完了
- ② 社団法人海外まき網漁業協会、社団法人全国削節工業協会との交流の強化
- ③ 全国鯉節類青年連絡協議会との連携強化

### (2) その他

- ① 会員の自主行動計画策定への周知および推進支援
- ② 新規会員獲得へ向けた施策検討

## 情報宣伝部・広報部

### 流通改善部

鯉節、さば節、宗田節等、節類はわが国のだし文化の礎の一つとして、歴史を刻んできた。近年のだしの再評価とともに、本物志向といった一連の流れの中で、マスコミ等に取り上げられる機会も多々ある。こうした機会を適切に捉えながら、会員に周知をして業界全体としての対外アピールに繋げていくことが重要になる。

また、情報発信という点では、ホームページ上での情報を精査・拡充し、一層有効活用できるよう検討する。また適切な広告協賛、データ整備についても対応していく。

一方、平成 21 年以降、増刷していない小冊子「かつお節とその仲間たち」に関して、昨今、活用希望の声もあることから、利用方法等を含めて精査し増刷していくことも検討し

ていく。その他、小冊子「かつおぶしってすごいんだ」およびリーフレット「かつお節でおいしい食卓」は、在庫状況を見ながら、イベント関連において適切に配布等行う。

一方、昨年、第19回全国鰹節類品評会が無事終了した。次回の開催は、まだ地域等も含めて未定ではあるが、今後、検討委員会を開催して、検証していくことが必要である。

(主な実施予定項目)

(1) 重要事項

- ① 生販の検討会議の開催
- ② マスコミ等への適切な取材対応および情報提供
- ③ 協会HP等の有効活用、新聞等広告発信
- ④ 子ども霞ヶ関見学デー等への協力

(2) その他

- ① 小冊子「かつお節とその仲間たち」の増刷

## 技術研究部

鰹節安全委員会の活動を中心に、引き続き(社)全国削節工業協会とともに、鰹節および節類の安全・安心に関して討議していく。そのために必要な分析等諸取組を行っていく。

また全国鰹節類生産者団体連合会と連携し、必要な施策についても臨機応変に対応できるよう調整を図っていく。

ほか会員を通じた消費者への情報発信・告知等にも備え、準備をしていく。

(主な実施予定項目)

(1) 重要事項

- ① 鰹節安全委員会の開催—製品の分析等調査・検討
- ② 全国鰹節類生産者団体連合会との連携・協力

## 食育関連事業

各種イベント等に参加し、食育活動を行う。鰹節・削り節は、古来より、“かつおだし”として長く愛され、さらに近年にはトッピング等により家庭で手軽に利用できる食材として定評を得ている。日常において身近な食材として認識される一方で、そこに含まれる栄養素等役割に関してはさほどでもない。本事業において、体作りに欠かせない良質なタンパク質を豊富に含む食品であること、さらに体内への吸収率を高めるリジンをはじめとした必須アミノ酸も多く含まれていることを再認識していただくべく事業を展開する。

食の欧米化による食生活の変化は著しく、メタボリックシンドローム等国民の健康に大きな影響を及ぼす。和食回帰の流れとともに、豊富な栄養素と低脂質等を合わせもつ鰹節・削り節の役割を、健全な食生活のモデルとともに再提起していき、認識の向上に努める。特に6月22、23日の2日間に亘り開催される第8回食育推進全国大会では、(社)全国削節工業協会と共同でブース運営を行い、漏れのない横断的な情報を消費者に提供していく。